

2026年度 酪農学研究科 修士課程 第2期入学試験問題  
(選択： 国際環境情報学)

【出題の意図】

以下の3問のうち2問を選択して回答すること。

1. 野生動物に関する位置情報（行動軌跡や目撃情報等）から、その潜在的な生息環境を空間的によって推定する手法について下記のキーワードを3つ以上用いて具体的に説明せよ。その際、空間情報（野生動物の位置情報を含む）の取得や選択時における注意点を述べよ。（50点）

キーワード：GNSS（GPS）、センサー、衛星画像、GIS、ドローン、モデル、環境要因

大学院進学後の研究手法の一つとして空間情報技術の活用方法を理解しているかを確認する

2. 人工衛星のアーカイブ（archive）データを用いて地域の土地利用・土地被覆の長期変化（気候など自然的要因と開発など人為的要因による変化）を定量的評価する手法について具体例を挙げてできるだけ詳しく説明せよ（50点）

進学後には大学院の1年生の授業では「国際環境情報学特論・特別演習・実験実習」などの授業と演習・実習を予定しているので、全くの「空間情報科学」の基礎がない人は授業と演習、実習に追いつかないと思うから、これらの基礎知識を確認のためです。

3. 2025年にクマによる人身被害は全国的に発生されまた駆除されたクマの頭数は1万頭近く上り、統計開始以来過去最悪となった。現在クマが生息するエリア（山林）と人里（人間の生活圏）の間に緩衝帯（ゾーニング）の設置を進めている自治体がある。では、空間情報『GIS（地理情報システム）、GPS（全球測位システム）、およびRS（リモートセンシング）』を利活用したクマの管理計画について具体的に述べよ。（50点）

受験生は野生動物の研究を専門としているために、空間情報科学を手段として、野生動物の生息地をモデル化するための情報（3S）に対するバックグラウンドを知りたい。また、修士1年生には「国際環境情報学特論・特別演習・実験実習」などの授業と演習・実習を予定しているので、全くの「空間情報科学」の基礎がない人は授業と演習、実習に追いつかないと思うから、これらの基礎知識を確認のためです。